



玉琴

二





空物縁玉琴二の巻



此物縁の年迄のことコトは榮承ウケノのやよ子の考カガハもあるされ史外シノは是コトをイヒて
 をもと一このふれがまじりあやうくんとあふものうらさび源氏物縁
 の年迄を師ウシの改カヘめあひて玉小掃タマコハもあるされ例タトヘはあひてある一つ々
 ぬれど新ニヒ整トヨむさふしてとうとくさうく一があれがまじり一きまで
 毛モ微ヒとありぬぎきことをもある一つ々の源氏物縁ハ光ヒカルをともて年迄
 を定サダめいつり此物縁のむ糸イトとあるハあうさこの胡アソ屋ヤあれがこの糸イトの生ウマれあふ
 年トシを始ハジメ年トシといふ一ぬらうさこの巻マキのまゆめいさうさこの胡アソ屋ヤの巻マキもて
 年トシ迄マデをうらさぶれど是コトはそのことあくと考カガハ知チるべしれが年トシ迄マデの
 ほとあまはえ一のこあま一さあうさこの胡アソ屋ヤ生ウマれあふより毎トシ年トシは

ありあり花冠の下巻はありありの朝臣廿九歳大宮二歳の二月小て
 こととらけり國讓巻の始ハ二月むよりあり云出〜ことあれバ例のてあり
 あらんよありよの朝臣三十歳大宮三歳の年と定むべきことあれど
 然あつて更あつての朝臣廿九歳大宮二歳の二月のことよて花冠のト
 巻と同年也き由ハ花冠の中巻 オカノマキ あつての朝臣 ナシツボ 梨壺女御七月むより
 よりち〜とあり由をひ オシ 同きト、巻よ あつての朝臣 後壺女御ち〜とあり
 ていつきむより由をひて國讓巻よて梨壺女御とて生あふ由を云〜
 つぎよ四月六日のことをいれバ四月の始よ生あつてあり同き中、巻よ晦
 月よ後壺女御とていふ文を生あふことを云て〜六月よありぬとあり
 小て五月晦日ありいとある〜此云る月どもと梨壺女御後壺女御の
コトイハ

ともよ〜と生あつて月よありればいと年と定めつる國讓のト、巻よ〜
 て年とありぬとあれどこれぞありよの朝臣三十歳大宮三歳の年とす
 き國讓のト、巻ハ三月の上の十日むより〜ととらけり樓上巻の始ハ
 三月十余日の始とあれどありよの朝臣三十歳大宮三歳の年の三月
 のつぎこの趣あれどあり〜と文このつぎよ大宮末年ハありつよありあり由の
 こゝろこれありよの朝臣三十歳の年の三月のつぎよありよを〜
 此ありつと云るをよの得ありとあるハ年紀ハ全くあり〜とあれど然あつ
 ざる也ありあり樓上のト、巻よ正月三日云とあるハ大宮 あつての朝臣 梨壺院
 正月あれどこの年の八月十五日ありよの朝臣の系極の家よ サガリ 院
 院の西院の由き オホキサキ のときささの オホキサキ 七十一のありあり〜と云る小て

年より八月廿二日より相
撲のよりありとある

暖味院

相撲のよりありとある
相撲のよりありとある

八月よりありとある

十一月よりありとある
十二月よりありとある

年よりありとある
ありとある

吹上

八月の十日のほどあり

九月朔日院のよりありとある
九日の宴は吹上とある

院のよりありとある
院のよりありとある

院のよりありとある
院のよりありとある

九月つごもり 十月朔日とある

菊宴

十一月朔日とある
十二月とある

年よりありとある
ありとある

廿二

とある八月十八日のよりありとある
大内記とある

吹上

正月廿七日とある
二月とある

三月とある
四月とある

初秋

六月よりありとある
七月朔日とある

八月九日相撲のよりありとある
ありとある

十月朔日とある
ありとある

田鶴群多巻

あつる年の二三月の夜よりあつるやとてあひ
二宮生れあふ

六月むらり云云 八月はありてあつるは女一宮をいふ本年十七葉のすいりり 同月
まきよりの姫君とちよ算とありあふ 貞雄按よすいりり廿四葉あつるを廿六葉すまきよ
廿八葉よりありあふいりまきよりの姫君八葉十八葉あつるを廿七葉 十葉十六葉
十一葉十五葉 十二葉十四葉 十三葉十三葉 十四葉十二葉よりありあふり欄本より
本年のうすいりりあつるはあつるいりり

花屏巻

十一月むらり云云 あつるは東極の家改つらんときとてあつるの里人の相は今年来て
とむらり三十年来はあつるいりりあつるいりりあつるいりりあつるいりりあつるいりり
あつるは廿八年よりあり

國鏡巻

あつるはあつるの正月むらりあつるいりりあつるいりりあつるいりりあつるいりり
十月中の十日あつるいりりの女いぬ宮生れあふ母女一宮
まきよりのあつるに葉 十葉まきよりに十三葉 十葉まきよりに十葉 十葉まきよりに十葉
あつるはあつるの正月あつるいりりあつるいりりあつるいりりあつるいりりあつるいりり
あつるはあつるの正月あつるいりりあつるいりりあつるいりりあつるいりりあつるいりり
あつるはあつるの正月あつるいりりあつるいりりあつるいりりあつるいりりあつるいりり

大政大臣源のすゑりり

あつるはあつるの正月あつるいりりあつるいりりあつるいりりあつるいりりあつるいりり
二月云云 三月云云 十葉まきよりのあつるいりりあつるいりりあつるいりりあつるいりり
あつるはあつるの正月あつるいりりあつるいりりあつるいりりあつるいりりあつるいりり
あつるはあつるの正月あつるいりりあつるいりりあつるいりりあつるいりりあつるいりり
あつるはあつるの正月あつるいりりあつるいりりあつるいりりあつるいりりあつるいりり

希家のほりあふ

あつるはあつるの正月あつるいりりあつるいりりあつるいりりあつるいりりあつるいりり
あつるはあつるの正月あつるいりりあつるいりりあつるいりりあつるいりりあつるいりり
あつるはあつるの正月あつるいりりあつるいりりあつるいりりあつるいりりあつるいりり
あつるはあつるの正月あつるいりりあつるいりりあつるいりりあつるいりりあつるいりり
あつるはあつるの正月あつるいりりあつるいりりあつるいりりあつるいりりあつるいりり

希家のほりあふ

あつるはあつるの正月あつるいりりあつるいりりあつるいりりあつるいりりあつるいりり
あつるはあつるの正月あつるいりりあつるいりりあつるいりりあつるいりりあつるいりり
あつるはあつるの正月あつるいりりあつるいりりあつるいりりあつるいりりあつるいりり
あつるはあつるの正月あつるいりりあつるいりりあつるいりりあつるいりりあつるいりり
あつるはあつるの正月あつるいりりあつるいりりあつるいりりあつるいりりあつるいりり

希家のほりあふ

あつるはあつるの正月あつるいりりあつるいりりあつるいりりあつるいりりあつるいりり
あつるはあつるの正月あつるいりりあつるいりりあつるいりりあつるいりりあつるいりり
あつるはあつるの正月あつるいりりあつるいりりあつるいりりあつるいりりあつるいりり
あつるはあつるの正月あつるいりりあつるいりりあつるいりりあつるいりりあつるいりり
あつるはあつるの正月あつるいりりあつるいりりあつるいりりあつるいりりあつるいりり

希家のほりあふ

あつるはあつるの正月あつるいりりあつるいりりあつるいりりあつるいりりあつるいりり
あつるはあつるの正月あつるいりりあつるいりりあつるいりりあつるいりりあつるいりり
あつるはあつるの正月あつるいりりあつるいりりあつるいりりあつるいりりあつるいりり
あつるはあつるの正月あつるいりりあつるいりりあつるいりりあつるいりりあつるいりり
あつるはあつるの正月あつるいりりあつるいりりあつるいりりあつるいりりあつるいりり

誰の子ともあはれなきをばつとまのナニの方とのとあはれぬ源氏物語の
 系留ハ女房達家司らひのいひはるるあはれぬと見ゆらん
 とらひをばつとあはれぬと見ゆらん
 あはれなきとすきりあはれぬ

系圖

嵯峨院

嵯峨院のこと律儀位のこときりあはれぬ梅花堂はまはるるほととぎすのいひは
 ありあはれぬまはるるありあはれぬ云ひ云ひはるるのことはして律儀位なり
 たりとすきりあはれぬと見ゆらん
 嵯峨院のこときりあはれぬと見ゆらん
 嵯峨院は放式院の女房と見ゆらん

式部院

大臣

式部院の女房 初秋は式部院の女房と見ゆらん
 式部院の女房 初秋は式部院の女房と見ゆらん
 式部院の女房 初秋は式部院の女房と見ゆらん

中務院

中務院の女房 初秋は式部院の女房と見ゆらん

太皇太后

太皇太后の女房 初秋は式部院の女房と見ゆらん

女房

女房のいひはるるあはれぬと見ゆらん
 女房のいひはるるあはれぬと見ゆらん
 女房のいひはるるあはれぬと見ゆらん

式部院

式部院の女房 初秋は式部院の女房と見ゆらん
 式部院の女房 初秋は式部院の女房と見ゆらん
 式部院の女房 初秋は式部院の女房と見ゆらん

古今の女名考七巻の... 今一人ハ... 又おま... 巻の中

仁孝女御

大長原のまきよりの大長母さうの院の女一宮 後深母は男宮に人
女三人の母の... 又女御... 田嶋祥吉... 仁孝女御とのこと

成務女御

成務のむすめ... 初秋葉... 國康... 中長の子女御
の... 九宮の母の... 國康... 中長の子女御

今上

後深女御
承香女御
宣耀女御

大長原のまきよりの九宮母さうの院の女一宮 長良の御母...
承香女御... 宣耀女御... 宣耀女御のすめ... 又承香女御... 宣耀女御のすめ...

世の... 文

藤原景康女御

藤原景康の... 大長... 藤原景康の... 大長... 二宮の母... 藤原景康は... 十八

梨壺女御

大長原の... 藤原景康の... 大長... 二宮の母... 藤原景康は... 十八

柗花女御

中納言平の... 藤原景康の... 大長... 二宮の母... 藤原景康は... 十八

柗花女御息所

成務の... 柗花女御息所の... 藤原景康の... 大長... 二宮の母... 藤原景康は... 十八

宇達女御

宇達女御の... 藤原景康の... 大長... 二宮の母... 藤原景康は... 十八

成務女御

成務女御の... 藤原景康の... 大長... 二宮の母... 藤原景康は... 十八

中務女御

中務女御の... 藤原景康の... 大長... 二宮の母... 藤原景康は... 十八

成務女御

成務女御の... 藤原景康の... 大長... 二宮の母... 藤原景康は... 十八

又

又... 藤原景康の... 大長... 二宮の母... 藤原景康は... 十八

兵部卿 兵部卿 兵部卿

兵部卿 兵部卿 兵部卿

兵部卿 兵部卿 兵部卿

兵部卿 兵部卿 兵部卿

兵部卿 兵部卿 兵部卿

兵部卿 兵部卿 兵部卿

兵部卿 兵部卿 兵部卿

兵部卿 兵部卿 兵部卿

兵部卿 兵部卿 兵部卿

兵部卿 兵部卿 兵部卿

兵部卿 兵部卿 兵部卿

兵部卿 兵部卿 兵部卿

兵部卿 兵部卿 兵部卿

兵部卿 兵部卿 兵部卿

兵部卿 兵部卿 兵部卿

兵部卿 兵部卿 兵部卿

兵部卿 兵部卿 兵部卿

兵部卿 兵部卿 兵部卿

兵部卿 兵部卿 兵部卿

兵部卿 兵部卿 兵部卿

兵部卿 兵部卿 兵部卿

兵部卿 兵部卿 兵部卿

兵部卿 兵部卿 兵部卿

兵部卿 兵部卿 兵部卿

兵部卿 兵部卿 兵部卿

兵部卿 兵部卿 兵部卿

兵部卿 兵部卿 兵部卿

兵部卿 兵部卿 兵部卿

兵部卿 兵部卿 兵部卿

兵部卿 兵部卿 兵部卿

大御君 タラウキミ 母一世孫氏 菊宴をよさうの大后宮六十の御女よすらう御孫あり

二御君 ジラウキミ 母おろ年十三歳のおう 田嶋群をせよ

三御君 サムラウキミ 母おろ

女君 メミナキミ 母おろ

もろす

二御君母女一宮 大御依宰相年廿九歳のおう 後承をよさう
祭使をよさ 岩津督 田嶋群をせよ 大御よ

大御君 タラウキミ 母年中御をよさうの中をのう 田嶋群をせよ

二御君 ジラウキミ 母おろ

三御君 サムラウキミ 母おろ

四御君 シラウキミ 母おろ

五御君 ゴラウキミ 母おろ

す

三御君母女一宮 中將孫人 既年廿八歳のおう 後承をよさう
田嶋群をせよ 宰相ありあふ 孫をよさ 宰相中將と

ととと君 トトトキミ 母源氏さうの大后宮の六十の御女よさ 孫ありあふ 菊宴をよ

ととと君 トトトキミ 孫をよさ 宰相中將の君の御女をよさ 八歳をうりあふ
ととりの云云 大后宮の御女よさ 孫ありあふ

つ

四御君母女一宮 大御依年廿七歳のおう 後承をよさう 初秋をよ
中將ありあふ 國讓をよ 宰相ありあふ

ひ

五御君母おほいごう 大御依年廿六歳のおう 後承をよさう
孫をよさ 妻宮亮ありあふ 孫をよさ 大御ありあふ

く

六御君母おろ 大御大補年廿五歳のおう 後承をよさう 田嶋群を
せよ 大御ありあふ 孫をよさ 大御依と

十二君

母おちし年九歳シラノキミのよし後承君をよもむ八月廿八日シラノキミおちしをよむ

十三君

母女一文字年八歳をよむとありし後承君をよもむ八月廿八日シラノキミおちしをよむ

十四君

母おちし年七歳をよむとありし後承君をよもむ八月廿八日おちしをよむ

まのころの大内族小方

まのころ小方

まのころの院の女一文字をよむとありしつる兼隆院といはれしつるの御師ありし

又

つぐずみ小方

一世源氏年廿八歳をよむとありしつる女三本男のつる田嶋群をよむ

せろずみ小方

年中納言をよむとありしつるの中承年廿六歳をよむとありしつる人のつるす

すろずみ小方

源氏年廿三歳をよむとありしつる田嶋群をよむ

つぐずみ小方

或為の女をよむとありしつる年廿三歳をよむとありしつる田嶋群をよむ

ひきずみ小方

迎の橋系をよむとありしつる年十六歳をよむとありしつる田嶋群をよむ

うねずみ小方

氏初に女をよむとありしつる年十六歳をよむとありしつる田嶋群をよむ

大政大臣

後承君をよむとありしつるの世より不まさ小野行幸の世にありしつる

中将

此名をよむとありしつるの世より不まさ極のつるの御師をよむとありしつる

大内族

大内君

母まのころの六君年八歳をよむとありしつる

大君 母おあし年三歳ありあゆし〜
大君 母おあし年三歳ありあゆし〜

二君 母おあし〜
二君 母おあし〜

少將 宰相といひ〜
少將 宰相といひ〜

侍後 侍後といひ〜
侍後 侍後といひ〜

大君 大君といひ〜
大君 大君といひ〜

中君 中君といひ〜
中君 中君といひ〜

〜
〜

二卿 二卿といひ〜
二卿 二卿といひ〜

三卿 三卿といひ〜
三卿 三卿といひ〜

〜
〜

〜
〜

〜
〜

業ありありハ也琴のまハ父もまさりありとらうがの巻よま也 初秋巻
ようちよて琴深多ひハ内賞ハ内侍督よまざる 花冠巻ハ三位よありあり
國讓巻ハ正三位よ加階ハあハ系極のうハ又三條のハ方 内侍のうハのこと
いしり

とらうがハ族ハ方

清原系ハ方

さかの院ハ妹とらうがの母のまハむハ花冠よりなる服多き秋よま也
さかの院のハ妹 女御のまハのまハ花冠巻よま也 楼王巻よらうがの院
の母の係氏ハ内息不もちのまハいれうとありといしり とらうがの巻のまハ
よてあはよとらうがの三十五巻の時よあひハあはハ
一世係氏巻の王の女らうらまハいすはれ多しうとらうがの巻よま也
楼王巻よらうがの巻の王のむこあはよといしり又さかの院のハこと
よあはのまハ布部羽衣のまハいれうハあはまよのまハあはりとも
とらうがの巻よ系極のうハ十巻の二月ハ傳よまをいしり

すらあ

源九大臣

太郎

これともえ史

あうのり

女君

たをが將係のあうのりハ大臣すらあうの二弟ありとさかの院よま也 菊室
巻よらう人ガ將といしり けく系巻よけく系巻よはまぬりの後あひまび
あひてあは呼よありありハ水尾のまハのりあつるありとも 玉讓巻よ山こり
のまハ巻よいしり 係將又らう人ガ將といしり 後ハ水尾律呼といしり
う系まらハ方年三十巻系あまびのこハ足のおねちまららりとも 花冠巻
よいしり 将のまハいしり

太郎

母ま系のまハやすむすめ 女君ハいしりあうの弟のまハ足ある

二弟

母あはらハ弟のあは足ハあはりのあは 花冠巻よいしり

女君

母あはらハ十巻系よハ 花冠巻よま也

すらあハ族ハ方

すらあハ方

あうのりハ方

家内ハ系系のまハやすむすめりて人のまハいしり 院よいしり

夜中納言^{イハナシ}あつて糸極の家修理^{イトノカタシ}あり 同時^{オモトキニ}内々^{ヒラ}同きあり事 中納言^{イハナシ}
ど^{キタカタ}の^{キタカタ}方^{キタカタ}一^{キタカタ}ま^{キタカタ}を^{キタカタ}し^{キタカタ}る^{キタカタ}事^{キタカタ} 同^{オモトキニ}時^{ヒラ}内^{ヒラ}々^{ヒラ}同^{ヒラ}き^{ヒラ}あり事^{ヒラ} 大^{イヌミヤ}宮^{イヌミヤ}
あつての^{オホミ}生^{オホミ}れ^{オホミ}あり 同^{オモトキニ}時^{ヒラ}内^{ヒラ}々^{ヒラ}同^{ヒラ}き^{ヒラ}あり事^{ヒラ} 若^{キミタチニ}連^{キミタチニ}内^{キミタチニ}極^{キミタチニ}あり
内^{イハナシ}中^{イハナシ}納^{イハナシ}言^{イハナシ}の^{イハナシ}もの^{イハナシ}ど^{イハナシ}も^{イハナシ}さ^{イハナシ}ら^{イハナシ}し^{イハナシ}ゆ^{イハナシ}ぢ^{イハナシ}あり 大^{イハナシ}將^{イハナシ}
お経^{オホミ}あり 九^{コノカ}日^{コノカ}の^{コノカ}夜^{コノカ}の^{コノカ}事^{コノカ} 内^{イハナシ}々^{イハナシ}同^{イハナシ}き^{イハナシ}あり事^{イハナシ} 内^{イハナシ}々^{イハナシ}同^{イハナシ}き^{イハナシ}あり事^{イハナシ}
より内^{イハナシ}々^{イハナシ}同^{イハナシ}き^{イハナシ}あり事^{イハナシ} 内^{イハナシ}々^{イハナシ}同^{イハナシ}き^{イハナシ}あり事^{イハナシ} 内^{イハナシ}々^{イハナシ}同^{イハナシ}き^{イハナシ}あり事^{イハナシ}
ありあり 内^{イハナシ}納^{イハナシ}言^{イハナシ}の^{イハナシ}す^{イハナシ}ら^{イハナシ}内^{イハナシ}々^{イハナシ}同^{イハナシ}き^{イハナシ}あり事^{イハナシ} 内^{イハナシ}中^{イハナシ}納^{イハナシ}言^{イハナシ}
の九^{イハナシ}日^{イハナシ}夜^{イハナシ}の^{イハナシ}さ^{イハナシ}ま^{イハナシ}奏^{イハナシ}あり 宰^{イハナシ}相^{イハナシ}中^{イハナシ}將^{イハナシ}す^{イハナシ}ら^{イハナシ}り 大^{イハナシ}宮^{イハナシ}の^{イハナシ}九^{イハナシ}日^{イハナシ}夜^{イハナシ}の^{イハナシ}内^{イハナシ}中^{イハナシ}納^{イハナシ}言^{イハナシ}あり
同^{オホミ}お^{オホミ}と^{オホミ}ご^{オホミ}の^{オホミ}ま^{オホミ}は^{オホミ}あ^{オホミ}る^{オホミ}もの^{オホミ}ど^{オホミ}も^{オホミ}あ^{オホミ}り^{オホミ}あり 大^{オホミ}將^{オホミ}の^{オホミ}さ^{オホミ}ま^{オホミ}奏^{オホミ}あり 宰^{オホミ}相^{オホミ}中^{オホミ}將^{オホミ}の^{オホミ}す^{オホミ}ら^{オホミ}り 大^{オホミ}宮^{オホミ}の^{オホミ}九^{オホミ}日^{オホミ}夜^{オホミ}の^{オホミ}内^{オホミ}中^{オホミ}納^{オホミ}言^{オホミ}あり
ありあり 大^{オホミ}將^{オホミ}の^{オホミ}さ^{オホミ}ま^{オホミ}奏^{オホミ}あり 宰^{オホミ}相^{オホミ}中^{オホミ}將^{オホミ}の^{オホミ}す^{オホミ}ら^{オホミ}り 大^{オホミ}宮^{オホミ}の^{オホミ}九^{オホミ}日^{オホミ}夜^{オホミ}の^{オホミ}内^{オホミ}中^{オホミ}納^{オホミ}言^{オホミ}あり

さしあり 中納言^{イハナシ}の^{イハナシ}さ^{イハナシ}ま^{イハナシ}奏^{イハナシ}あり 大^{イハナシ}將^{イハナシ}の^{イハナシ}さ^{イハナシ}ま^{イハナシ}奏^{イハナシ}あり 大^{イハナシ}將^{イハナシ}を^{イハナシ}辞^{イハナシ}あり 中納言^{イハナシ}大^{イハナシ}將^{イハナシ}
ありあり 大^{オホミ}將^{オホミ}の^{オホミ}さ^{オホミ}ま^{オホミ}奏^{オホミ}あり 宰^{オホミ}相^{オホミ}中^{オホミ}將^{オホミ}の^{オホミ}す^{オホミ}ら^{オホミ}り 大^{オホミ}宮^{オホミ}の^{オホミ}九^{オホミ}日^{オホミ}夜^{オホミ}の^{オホミ}内^{オホミ}中^{オホミ}納^{オホミ}言^{オホミ}あり
ありあり 大^{オホミ}將^{オホミ}の^{オホミ}さ^{オホミ}ま^{オホミ}奏^{オホミ}あり 宰^{オホミ}相^{オホミ}中^{オホミ}將^{オホミ}の^{オホミ}す^{オホミ}ら^{オホミ}り 大^{オホミ}宮^{オホミ}の^{オホミ}九^{オホミ}日^{オホミ}夜^{オホミ}の^{オホミ}内^{オホミ}中^{オホミ}納^{オホミ}言^{オホミ}あり

大将キタカタおとろひ物持モノモチありし中納言ナカノゴきよなりゆりゆりし中納言ナカノゴおとろひありし
中納言ナカノゴおとろひ物持モノモチありし
源中納言ゲンナカノゴのキタカタ水方ミヅカタのヒトツカタ元帥ゲンシは集入ツドし
源中納言ゲンナカノゴのキタカタ水方ミヅカタのヒトツカタ元帥ゲンシは集入ツドし
源中納言ゲンナカノゴのキタカタ水方ミヅカタのヒトツカタ元帥ゲンシは集入ツドし
源中納言ゲンナカノゴのキタカタ水方ミヅカタのヒトツカタ元帥ゲンシは集入ツドし
源中納言ゲンナカノゴのキタカタ水方ミヅカタのヒトツカタ元帥ゲンシは集入ツドし

左大将サキキタカタのキタカタ水方ミヅカタのヒトツカタ元帥ゲンシは集入ツドし
左大将サキキタカタのキタカタ水方ミヅカタのヒトツカタ元帥ゲンシは集入ツドし
左大将サキキタカタのキタカタ水方ミヅカタのヒトツカタ元帥ゲンシは集入ツドし
左大将サキキタカタのキタカタ水方ミヅカタのヒトツカタ元帥ゲンシは集入ツドし
左大将サキキタカタのキタカタ水方ミヅカタのヒトツカタ元帥ゲンシは集入ツドし
左大将サキキタカタのキタカタ水方ミヅカタのヒトツカタ元帥ゲンシは集入ツドし
左大将サキキタカタのキタカタ水方ミヅカタのヒトツカタ元帥ゲンシは集入ツドし
左大将サキキタカタのキタカタ水方ミヅカタのヒトツカタ元帥ゲンシは集入ツドし
左大将サキキタカタのキタカタ水方ミヅカタのヒトツカタ元帥ゲンシは集入ツドし
左大将サキキタカタのキタカタ水方ミヅカタのヒトツカタ元帥ゲンシは集入ツドし

院は福ありあふ おとろふさま フニチキミ 大将 フニチキミ 一室 フニチキミ 友おとろふさまとて女君 フニチキミ どの位 フニチキミ あり フニチキミ

とある 同 カネササ 小方 カネササ 孫 カネササ 権 カネササ の カネササ 一 カネササ 室 カネササ 友 カネササ の カネササ き カネササ ま カネササ り カネササ あり カネササ 梨 カネササ 壺 カネササ 中 カネササ 里 カネササ ま カネササ り カネササ あり カネササ

國 クニ 鏡 ユヅリ 芭 マキ

大 ミギリ の ミギリ お ミギリ と ミギリ ま ミギリ り ミギリ の ミギリ 中 ミギリ 尊 ミギリ 友 ミギリ ま ミギリ り ミギリ の ミギリ 位 ミギリ だ ミギリ あり ミギリ 大 ミギリ 大 ミギリ 友 ミギリ の ミギリ 家 ミギリ 之 ミギリ 衆 ミギリ 大 ミギリ ま ミギリ り ミギリ あり ミギリ

事 コト 友 フチツボ 壺 フチツボ 中 フチツボ 里 フチツボ ま フチツボ り フチツボ の フチツボ 位 フチツボ だ フチツボ あり フチツボ と フチツボ する フチツボ 事 フチツボ お フチツボ ほ フチツボ き フチツボ お フチツボ と フチツボ ず フチツボ 事 フチツボ お フチツボ ち フチツボ り フチツボ あり フチツボ

ひ ヒ あり ヒ 同 ヒ 大 ヒ 友 ヒ ま ヒ り ヒ の ヒ 位 ヒ だ ヒ あり ヒ 中 ヒ 里 ヒ ま ヒ り ヒ の ヒ 位 ヒ だ ヒ あり ヒ 宰相 ヒ の ヒ 朝 ヒ 臣 ヒ ま ヒ り ヒ

ま マ り マ あり マ 事 マ の マ 位 マ だ マ あり マ 中 マ 里 マ ま マ り マ の マ 位 マ だ マ あり マ お マ ほ マ き マ お マ と マ ず マ 事 マ お マ ち マ り マ あり マ 事 マ の マ 位 マ だ マ あり マ

あ ア ひ ア り ア あり ア 事 ア の ア 位 ア だ ア あり ア 中 ア 里 ア ま ア り ア の ア 位 ア だ ア あり ア 事 ア の ア 位 ア だ ア あり ア 事 ア の ア 位 ア だ ア あり ア

さ サ り サ あり サ 事 サ の サ 位 サ だ サ あり サ 中 サ 里 サ ま サ り サ の サ 位 サ だ サ あり サ 事 サ の サ 位 サ だ サ あり サ 事 サ の サ 位 サ だ サ あり サ

善 シ 定 シ 中 シ 秋 シ せ シ あり シ 源 シ 中 シ 綱 シ 友 シ 壺 シ ま シ り シ の シ 位 シ だ シ あり シ 事 シ の シ 位 シ だ シ あり シ 事 シ の シ 位 シ だ シ あり シ

大 オホ 友 オホ 女 オホ 御 オホ 君 オホ 仁 オホ 事 オホ 友 オホ と オホ 事 オホ の オホ 位 オホ だ オホ あり オホ 事 オホ の オホ 位 オホ だ オホ あり オホ 事 オホ の オホ 位 オホ だ オホ あり オホ

壺 ウ ま ウ り ウ あり ウ 事 ウ の ウ 位 ウ だ ウ あり ウ 中 ウ 里 ウ ま ウ り ウ の ウ 位 ウ だ ウ あり ウ 事 ウ の ウ 位 ウ だ ウ あり ウ 事 ウ の ウ 位 ウ だ ウ あり ウ

事 コト 同 カ 善 カ 定 カ 中 カ 秋 カ せ カ あり カ 源 カ 中 カ 綱 カ 友 カ 壺 カ ま カ り カ の カ 位 カ だ カ あり カ 事 カ の カ 位 カ だ カ あり カ 事 カ の カ 位 カ だ カ あり カ

ま マ り マ あり マ 事 マ の マ 位 マ だ マ あり マ 中 マ 里 マ ま マ り マ の マ 位 マ だ マ あり マ 事 マ の マ 位 マ だ マ あり マ 事 マ の マ 位 マ だ マ あり マ

あ ア り ア 事 ア の ア 位 ア だ ア あり ア 中 ア 里 ア ま ア り ア の ア 位 ア だ ア あり ア 事 ア の ア 位 ア だ ア あり ア 事 ア の ア 位 ア だ ア あり ア

よ ヨ 事 ヨ あり ヨ 事 ヨ の ヨ 位 ヨ だ ヨ あり ヨ 中 ヨ 里 ヨ ま ヨ り ヨ の ヨ 位 ヨ だ ヨ あり ヨ 事 ヨ の ヨ 位 ヨ だ ヨ あり ヨ 事 ヨ の ヨ 位 ヨ だ ヨ あり ヨ

事 コト 同 カ 善 カ 定 カ 中 カ 秋 カ せ カ あり カ 源 カ 中 カ 綱 カ 友 カ 壺 カ ま カ り カ の カ 位 カ だ カ あり カ 事 カ の カ 位 カ だ カ あり カ 事 カ の カ 位 カ だ カ あり カ

の ノ 事 ノ あり ノ 事 ノ の ノ 位 ノ だ ノ あり ノ 中 ノ 里 ノ ま ノ り ノ の ノ 位 ノ だ ノ あり ノ 事 ノ の ノ 位 ノ だ ノ あり ノ 事 ノ の ノ 位 ノ だ ノ あり ノ

さま サマ 大 オホ 将 オホ 友 オホ 事 オホ の オホ 位 オホ だ オホ あり オホ 事 オホ の オホ 位 オホ だ オホ あり オホ 事 オホ の オホ 位 オホ だ オホ あり オホ

女 メ 房 ボウ 中 ナカ 里 リ ま メ り メ の メ 位 メ だ メ あり メ 事 メ の メ 位 メ だ メ あり メ 事 メ の メ 位 メ だ メ あり メ 事 メ の メ 位 メ だ メ あり メ

三条のくさきイナ 三条のよ近カ 氏親ニ 新宰相ニ 三条のよ近カ

五条のふぢキ 五条のふぢキ 五条のふぢキ 五条のふぢキ

六条のふぢキ 六条のふぢキ 六条のふぢキ 六条のふぢキ

七条のふぢキ 七条のふぢキ 七条のふぢキ 七条のふぢキ

八条のふぢキ 八条のふぢキ 八条のふぢキ 八条のふぢキ

九条のふぢキ 九条のふぢキ 九条のふぢキ 九条のふぢキ

十条のふぢキ 十条のふぢキ 十条のふぢキ 十条のふぢキ

十一條のふぢキ 十一條のふぢキ 十一條のふぢキ 十一條のふぢキ

十二條のふぢキ 十二條のふぢキ 十二條のふぢキ 十二條のふぢキ

十三條のふぢキ 十三條のふぢキ 十三條のふぢキ 十三條のふぢキ

十四條のふぢキ 十四條のふぢキ 十四條のふぢキ 十四條のふぢキ

十五條のふぢキ 十五條のふぢキ 十五條のふぢキ 十五條のふぢキ

十六條のふぢキ 十六條のふぢキ 十六條のふぢキ 十六條のふぢキ

吉原院ヨシハラノイノに遷居すべしと申されり
 同書にて大慶を召して二宮を攝す事
 同書にて大慶を召して二宮を攝す事
 同書にて大慶を召して二宮を攝す事
 同書にて大慶を召して二宮を攝す事
 同書にて大慶を召して二宮を攝す事

つまひ一 招きかゝる八君の内通はまゐりあはしむるの事
 御ことのごとくありあはしむる事
 大將あつての事
 大將あつての院の事
 大將あつての事
 大將あつての事
 大將あつての事
 大將あつての事
 大將あつての事

の成程よりのあふ ミモト 赤松院まのあふ ノチハジメ 後始りてさかの院は相りあふ ニヤヤミ 二宮親王
ナリコ 宣下 あつばのまのあふ ミヤマキ 三宮のあふ フジボク 後始りてさかの院は相りあふ
ルハ 宣下 あつばのまのあふ ミヤマキ 三宮のあふ フジボク 後始りてさかの院は相りあふ
ミカド 同清秋さあふ ミドキヤタ 大将のあふ ミヤマキ 三宮のあふ フジボク 後始りてさかの院は相りあふ
オムテ 女御さあふ オムテ 系内さあふ ニヤヤミ 三宮のあふ フジボク 後始りてさかの院は相りあふ
ミヤマキ 氏親さあふ シメタテ 氏親のあふ ミヤマキ 三宮のあふ フジボク 後始りてさかの院は相りあふ
オムカケ 氏親さあふ オムカケ 氏親のあふ ミヤマキ 三宮のあふ フジボク 後始りてさかの院は相りあふ
ミヤストコロ 氏親さあふ オミタチ 氏親のあふ ミヤマキ 三宮のあふ フジボク 後始りてさかの院は相りあふ
ミヤストコロ 氏親さあふ オミタチ 氏親のあふ ミヤマキ 三宮のあふ フジボク 後始りてさかの院は相りあふ
オミカケ 氏親さあふ オミカケ 氏親のあふ ミヤマキ 三宮のあふ フジボク 後始りてさかの院は相りあふ
オミカケ 氏親さあふ オミカケ 氏親のあふ ミヤマキ 三宮のあふ フジボク 後始りてさかの院は相りあふ
オミカケ 氏親さあふ オミカケ 氏親のあふ ミヤマキ 三宮のあふ フジボク 後始りてさかの院は相りあふ

宰相中將さあふ ミヤマキ 宰相のあふ フジボク 后始りてさかの院は相りあふ ニヤヤミ 二宮親王
オミカケ 宰相中將さあふ オミカケ 宰相のあふ ミヤマキ 三宮のあふ フジボク 後始りてさかの院は相りあふ
オミカケ 宰相中將さあふ オミカケ 宰相のあふ ミヤマキ 三宮のあふ フジボク 後始りてさかの院は相りあふ
オミカケ 宰相中將さあふ オミカケ 宰相のあふ ミヤマキ 三宮のあふ フジボク 後始りてさかの院は相りあふ
オミカケ 宰相中將さあふ オミカケ 宰相のあふ ミヤマキ 三宮のあふ フジボク 後始りてさかの院は相りあふ
オミカケ 宰相中將さあふ オミカケ 宰相のあふ ミヤマキ 三宮のあふ フジボク 後始りてさかの院は相りあふ
オミカケ 宰相中將さあふ オミカケ 宰相のあふ ミヤマキ 三宮のあふ フジボク 後始りてさかの院は相りあふ
オミカケ 宰相中將さあふ オミカケ 宰相のあふ ミヤマキ 三宮のあふ フジボク 後始りてさかの院は相りあふ
オミカケ 宰相中將さあふ オミカケ 宰相のあふ ミヤマキ 三宮のあふ フジボク 後始りてさかの院は相りあふ
オミカケ 宰相中將さあふ オミカケ 宰相のあふ ミヤマキ 三宮のあふ フジボク 後始りてさかの院は相りあふ

がらり 同大將カネササどのらもよ系極キョクどのぞめがらりある 大宮イヌミヤは琴キムちちりある
事 定サりし侍サマ従トのめののの辨ヘトは大宮イヌミヤの内ウチへとをある 大宮イヌミヤいとよく
琴キムああひひととありある 大宮イヌミヤ後ノチ後ノチ壺ヒツ女メ所トコロの内ウチ方カタはまありあひは物モノ修シユすある
源ヒラノ中ナカ納ノウ去キりりと大將イヌミヤどのよまありある 大將イヌミヤどのウチ内ウチ裏ウラ院イヌはまありある
院イヌのウチもウチと大宮イヌミヤの琴キム習ナラひあるサマをウチづづ不フある 大將イヌミヤどのウチ女メ一ヒツ宮ミヤの内ウチ方カタはま
まあり事コト 同オカ父チおとどのウチ内ウチ辨ヘトはまありある 大宮イヌミヤ琴キム内ウチ心ココロはりれてありひある
ああららりりのウチ歌ウタをウチある 大宮イヌミヤ女メ一ヒツ大將イヌミヤどのウチいいりりああららり
大宮イヌミヤの琴キム習ナラふふとよまありある 大將イヌミヤどのウチ内ウチ裏ウラはまありある 大將イヌミヤどのウチいいりりああららり
ひひろろのウチいいりりああららりある 大將イヌミヤどのウチ源ヒラノ中ナカ納ノウ去キりりとよまありある 同オカ時トキ
中ナカ納ノウ去キりりのウチ飛ヒ鳥トリをウチある 大宮イヌミヤの琴キム習ナラひひとありあるサマをウチすすとありひあひ
てウチああららりりぎぎ由ユのウチああひひろろある 大將イヌミヤどのウチ女メ一ヒツ宮ミヤの内ウチ方カタはまありあるウチてウチ歌ウタ
をウチありある 同オカ正マサ月ツキ三ミ日ニチ内ウチ院イヌまま大宮イヌミヤ其ソノ外ソトのウチいいりりああららりある 大宮イヌミヤは
大將イヌミヤどのウチいいりりああららり事コト 大宮イヌミヤ女メ一ヒツ宮ミヤをウチひひてウチ歌ウタをウチある 大宮イヌミヤは
ううんんのウチいいりりああららり事コト 系極キョクのウチいいりりああららり事コト 大宮イヌミヤのウチいいりりああららり事コト 大宮イヌミヤは
後ノチはノチああららり 同オカ時トキもも大宮イヌミヤ若ニギ君キミいいぬぬ事コトをウチある 七月シチツキ七日ニチううんんのウチ大宮イヌミヤとと
すすままららりある 同オカ夜ヨ源ヒラノ中ナカ納ノウ去キりりととああららり事コト 大宮イヌミヤの琴キム習ナラひあるウチをウチああららり 同オカ夜ヨ
大將イヌミヤどのウチ放ホウ法ホフ親シンのウチいいりりああららり事コト 同オカ夜ヨううんんのウチ内ウチ父フ放ホウ法ホフ親シンのウチいいりりああららり事コト
系極キョクどのウチいいりりああららり事コト 系極キョクのウチいいりりああららり事コト 大宮イヌミヤのウチいいりりああららり事コト 大宮イヌミヤは
ああららり事コト 大將イヌミヤどのウチいいりりああららり事コト 八月ハチツキ七日ニチ大宮イヌミヤ琴キムああららりウチをウチああららり事コト 大宮イヌミヤは
ああららり事コト 同日ツギニチ大宮イヌミヤ琴キムああららりウチをウチああららり事コト 源ヒラノ中ナカ納ノウ去キりりのウチいいりりああららり事コト

がらり 同大將カネササどのらもよ系極キョクどのぞめがらりある 大宮イヌミヤは琴キムちちりある
事 定サりし侍サマ従トのめののの辨ヘトは大宮イヌミヤの内ウチへとをある 大宮イヌミヤいとよく
琴キムああひひととありある 大宮イヌミヤ後ノチ後ノチ壺ヒツ女メ所トコロの内ウチ方カタはまありあひは物モノ修シユすある
源ヒラノ中ナカ納ノウ去キりりと大將イヌミヤどのよまありある 大將イヌミヤどのウチ内ウチ裏ウラ院イヌはまありある
院イヌのウチもウチと大宮イヌミヤの琴キム習ナラひあるサマをウチづづ不フある 大將イヌミヤどのウチ女メ一ヒツ宮ミヤの内ウチ方カタはま
まあり事コト 同オカ父チおとどのウチ内ウチ辨ヘトはまありある 大宮イヌミヤ琴キム内ウチ心ココロはりれてありひある
ああららりりのウチ歌ウタをウチある 大宮イヌミヤ女メ一ヒツ大將イヌミヤどのウチいいりりああららり
大宮イヌミヤの琴キム習ナラふふとよまありある 大將イヌミヤどのウチ内ウチ裏ウラはまありある 大將イヌミヤどのウチいいりりああららり
ひひろろのウチいいりりああららりある 大將イヌミヤどのウチ源ヒラノ中ナカ納ノウ去キりりとよまありある 同オカ時トキ
中ナカ納ノウ去キりりのウチ飛ヒ鳥トリをウチある 大宮イヌミヤの琴キム習ナラひひとありあるサマをウチすすとありひあひ
てウチああららりりぎぎ由ユのウチああひひろろある 大將イヌミヤどのウチ女メ一ヒツ宮ミヤの内ウチ方カタはまありあるウチてウチ歌ウタ
をウチありある 同オカ正マサ月ツキ三ミ日ニチ内ウチ院イヌまま大宮イヌミヤ其ソノ外ソトのウチいいりりああららりある 大宮イヌミヤは
大將イヌミヤどのウチいいりりああららり事コト 大宮イヌミヤ女メ一ヒツ宮ミヤをウチひひてウチ歌ウタをウチある 大宮イヌミヤは
ううんんのウチいいりりああららり事コト 系極キョクのウチいいりりああららり事コト 大宮イヌミヤのウチいいりりああららり事コト 大宮イヌミヤは
後ノチはノチああららり 同オカ時トキもも大宮イヌミヤ若ニギ君キミいいぬぬ事コトをウチある 七月シチツキ七日ニチううんんのウチ大宮イヌミヤとと
すすままららりある 同オカ夜ヨ源ヒラノ中ナカ納ノウ去キりりととああららり事コト 大宮イヌミヤの琴キム習ナラひあるウチをウチああららり 同オカ夜ヨ
大將イヌミヤどのウチ放ホウ法ホフ親シンのウチいいりりああららり事コト 同オカ夜ヨううんんのウチ内ウチ父フ放ホウ法ホフ親シンのウチいいりりああららり事コト
系極キョクどのウチいいりりああららり事コト 系極キョクのウチいいりりああららり事コト 大宮イヌミヤのウチいいりりああららり事コト 大宮イヌミヤは
ああららり事コト 大將イヌミヤどのウチいいりりああららり事コト 八月ハチツキ七日ニチ大宮イヌミヤ琴キムああららりウチをウチああららり事コト 大宮イヌミヤは
ああららり事コト 同日ツギニチ大宮イヌミヤ琴キムああららりウチをウチああららり事コト 源ヒラノ中ナカ納ノウ去キりりのウチいいりりああららり事コト

院ニ系ニ内ニあり大宮ノの琴ヲ彈キたる由ヲ奏シあふ 八月ニ十六日ニいぬ宮ノの琴ヲ彈キうら
 とあふニ由ヨ奏スあふ 大將ノの八月ニ十六日ニのニ内ニ殺シあふ 此日ニ初メとシます
 づき由ヨ院ヨり始メりあふニよクあふ 系ノ極ノの系ノ御ニ奏スあふニ初メとシます
 あふ 大庭ノあふ 大宮ノをほノるあふ 内ニ殺シあふ 一院ノ系ノ院ノ内ニ存シ督カ大宮ノ
 をほノるあふ 大將ノのノ人ノの舞ヲ奏スあふ 一院ノ内ニ存シ督カ大宮ノ
 あふ さがの院ノ内ニ存シ督カ大宮ノの琴ヲ彈キあふニ由ヨ奏スあふ 内ニ存シ督カ大宮ノの琴ヲ彈キ
 あふ 同ニ琴ヲ奏ス内ニ存シ督カ大宮ノの琴ヲ奏スあふ 内ニ存シ督カ大宮ノの琴ヲ奏スあふ 系ノ極ノの系ノ御ニ奏ス
 あふ 系ノ極ノの系ノ御ニ奏スあふ 同ニ初メとシます 琴ヲ奏スあふニ初メとシます 系ノ極ノの系ノ御ニ奏ス
 内ニ存シ督カ大宮ノの琴ヲ彈キあふ さがの院ノ内ニ存シ督カ大宮ノの琴ヲ彈キあふ 系ノ極ノの系ノ御ニ奏ス
 内ニ存シ督カ大宮ノの琴ヲ彈キあふ 大宮ノの琴ヲ彈キあふ 一院ノ内ニ存シ督カ大宮ノの琴ヲ彈キあふ

此日ノの勅ヲ賞スあふニ初メとシます 故ニ治ヲ給テあふニ友ニ位ニ増シあふ 系ノ極ノの系ノ御ニ奏ス
 此款ヲを大庭ノあふ 大將ノのノ人ノの舞ヲ奏スあふ 系ノ極ノの系ノ御ニ奏スあふ

室物ノ御ニ奏ス二ノのニ也ニ終ル

詞花堂藏板

姓序考

細井貞雄大人著

一冊 既刻

三代實錄補遺

右同

二冊 附刻

空物語玉琴

右同
異本考正条

三卷四卷五卷 未刻

五十音考

右同

一冊 未刻

地名類聚

右同

二十冊 未刻

文化十二年乙亥七月

江戸中橋廣小路

製本所

西宮彌兵衛

